

新しい防災情報共有システムの構築と評価

研究の概要

スマートフォンやタブレット端末の普及により、いつでもどこでも防災情報を得ることが可能になっています。しかしながら、従来の防災情報は、デジタル情報であっても自分に関係する情報を自由に追記できないなどの問題があります。また、常日頃から防災情報に触れ続けるというのは難しいという問題もあります。私たちの研究グループでは、様々な形で提供されている防災情報の共有の方法や効果的な利用方法を研究開発し、その評価を行っています。実用化を目指して支援システムの開発を行っているため、実際の現場で利用しながら、プロトタイプシステムの検討が行えます。

研究の特徴

私たちの研究グループの特徴は、現場の人を交えて新しいシステムを構築することが多い点です。これまでも、多数のグループと組んで、様々な防災システムを構築してきました。

図1は、地域で防災マップ作成イベントを行う際に、スマートフォンとパソコンを用いた防災マップを作成するためのシステムです。街歩きの段階では、各自のスマートフォンで写真を撮ったり、メモを取ったりしながら、各自の気づきを記録できます。防災マップ作成イベントの終了後は、そのままいつでも自分たちで作成した防災マップを閲覧できます。

図2は、逃げ地図を自動作成するためのシステムです。新たな避難所や、新たな逃げ道を自由に追加したり、通れない道を設定したりできます。

図3は、逃げ地図を書くための支援システムです。光で提示された逃げ地図を利用して、楽しく、短時間で、逃げ地図を描くことができます。

実用化が想定される分野

防災分野

研究者からのメッセージ

様々な防災情報の共有システムの実用化を目指しています。これまでの防災情報の共有に関する問題を解決するために、新しい支援システムの開発と一緒に取り組んでみませんか？

[研究紹介のホームページ]

<https://web.wakayama-u.ac.jp/~yoshino/lab/>



図1

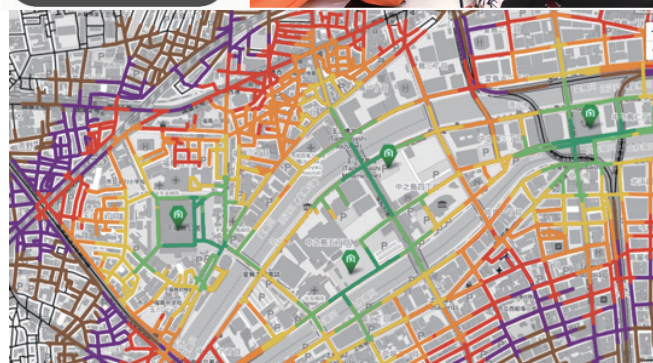


図2



図3

研究分野 : ヒューマンコンピュータインタラクション, 情報共有, 防災支援

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学システム工学部 情報学領域・教授・吉野孝

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp